



# 森のなかま

2012年10月号  
NO.54 (継続199号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明  
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

“多様な要請に対応できる 森林インストラクターの資質向上をめざして“

第2回 森林インストラクターブラッシュアップ研修 8月25日(土)

(テーマ) 山と人との関係

午前『山に誘い込むワナ』 講師 浜田 久美子 様  
午後『森林化社会の実現に向けて』 講師 高橋(今井) 通子 様

(公財)かながわトラストみどり財団主催による神奈川県森林インストラクターのブラッシュアップ研修が、平成24年8月25日(土)に実施されました。多様なボランティア活動の要請に対応し、森林インストラクターの資質向上を図るため、山と人との関係について講義をお願いする趣旨での企画でした。従って、技術委員会の代理として森林癒し部会も協力しました。当日は、午前10時より午後3時まで、神奈川県立地球市民かながわプラザにて、作家の浜田久美子氏による「山へ誘い込むワナ」、医学博士の高橋(今井)通子氏による「森林化社会の実現に向けて」というお話しをしていただきました。51名の参加でした。



◆ **浜田久美子氏**には、若い頃木に癒された体験から、「どうしても木にお返しができるか」という想いで、山仕事をみっちり教えられる大学教授から学んだあれこれ、その後の取り組み・関わりを、静かに熱く話していただきました。森の幼稚園・森林療法等多様な活動にもふれていただきました。



「森一樹一木のつながりを語る・体験させる・気づかせる事が大切だ。」「森に呼ぶのではなく街に出る事も大切だ。」というお話しに共感しました。インストラクターに関わる活動でも、反省し生かせる面が多々あると思いました。おもちゃ美術館を訪問し、木育についても学びたいと思いました。

◆ **高橋(今井)通子氏**には、南極・北極に始まりコスタリカの取り組みにもふれながら、森林化社会に向けて、話していただきました。森林の機能として人の全人的教育機能・森林の癒し効果—森林セラピーにもふれられ、大きな視点での精力的なお話しに、今更ながら、感心しました。



モルフォチョウのコスタリカには、一度行ってみたいと思っていましたが、森林化社会の取り組みのお話を聞き、さらに行ってみたくくなりました。

浜田久美子氏 プロフィール

東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒、精神科のカウンセラーを経て、木の力に触れたことから森林をテーマにした著述業に転身。

森林や木と自分達の暮らしがつながることで人にとっては安定、森には安泰をもたらす、との視点で活動。

著述や講演などを通じて森の効果を説き、自らも山に入り森や木との触れ合い体験を続ける。

著書は「森の力～育む、癒す、地域をつくる」、「森をつくる人々」他 多数

高橋(今井)通子氏 プロフィール

東京都出身。医師・登山家。

女性世界初のアルプス三大北壁登攀に成功。

東京女子医科大学泌尿器科非常勤講師。日本泌尿器科学会指導医・専門医。医学博士。

森林セラピーソサエティ 理事長

【著書】山は私の学校だった マッターホルンの空中トイレ 他

【ラジオ】テレフォン人生相談 NHK ラジオ深夜便 Growing Reed 【テレビ】地球アゴラ クイズ日本の顔

◆ 今回は、内容の研修もさることながら、参加姿勢・参加態度のあり方として、感じるものが少なからずありました。すなわち、講師の先生が、どういう趣旨でどういうことを話そうとしておられるのか、どういう質問をしたらよりよい補説をしていただけるのか、等々講師の先生に失礼にならず研修をより深められるよう、考えて参加した方がよいのではないかな等々です。

いずれにしても、研修を前向きに生かし、インストラクターの仲間をはじめ関係者と連携・協力しながら、さらに森林づくり・森林活動に励みたいと思いました。

( 記 : 一技術委員会代理一 森林癒し部会 高崎 好計 ) ( 写真: 広報 松本 )



かながわ森林インストラクターの会は支援団体としても取組んでいます。  
全国で5番目/NPO法人で初委託されています。

自然観察部会 ブラッシュアップ研修会 箱根 9月1日(土) 環境省箱根ビジターセンター及び周辺園地

『 昆虫をはじめとする動くものに関して(生態系の中における昆虫の役割とその昆虫たちの姿) 』

講師: 上妻 信夫 様 (自然公園財団箱根支部・自然公園指導員)

植物は自分で栄養を作るが、動物には作れない。これは既に我々の常識とするところだが、植物は堅い細胞壁を持つが、動物は持たないということ、細胞模式図を見せて説明して下さった。そのことが植物と動物の死後の様子を異にし、それは本質的な違いだと、なんとも示唆に富んだ話である。その後、講師が箱根での研究生活を通して収集された、野鳥の生態写真をふんだんに見せて下さった。雄キジ2羽が縄張りをめぐって延々と続ける闘争、その結果得た雌キジへの求愛行動だが、健闘むなしくなかなか成就しない。キジが木の手すりの上に止まっているが、どうした拍子か足を滑らせ、慌てて羽をばたばたさせている。アオゲラが電柱のてっぺんでドラミングをしているが、叩いているのは金属のキャップである。講師は、野鳥もこんなにドジな行動をする、と申される。動物も人間もおんなじだね、ということだろうか。午後は、周辺の園地を散策したが、あいにくの雨模様で昆虫や野鳥よりもオミナエシ、ヒヨドリバナなどの秋の千草と、せっせと産卵行動をするオオシオカラトンボとススキの茂みの中で見たカヤネズミの巣が印象的だった。

ドジったキジ (講義資料より)

室内での講義風景



カヤネズミの巣

( 記、写真: 自然観察部会 鳥飼一俊 )

## 私の認識

## 野鳥その102

高橋 恒通

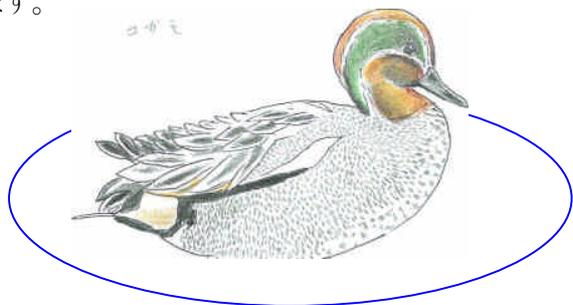
カモ目カモ科の4番手は冬鳥、中部地方以北では少数が夏鳥のコガモ(漢和名:小鴨、英名: Green-winged Teal、体長L=38cm)についてご案内致します。

♂の体色は、目の周りから後頭部にかけて緑色、それを取り囲む頬と頭中央部が茶褐色で背面は黒褐色です。そして体側面は灰色で上面との境目に白色の線がありますし、尻の一部が黄白色の長三角形でよく目立ちます。

これに対して♀は全体が黒褐色の地味な色合いです。♂♀共通なのは嘴の黒色と翼鏡(ヨクキョウ)が鮮緑色の金属光沢だけです。

「翼鏡」とはカモ類の次列風切の一部で、羽の色に金属光沢のある部分を言います。

コガモの我国に於ける棲息環境は、湖沼、河川、遊水池を含む池などで、日中は彼等にとって安全と思われる場所で休息や羽繕いをしています。その中には日中でも活発に行動する個体も居ますが、多くは夕方から採餌の為に活動するものと認識しております。



採食は田圃で稲の落穂や、畑でイネ科の植物の種子、そして川の浅瀬で水中の藻類などです。

私の住む伊勢原でも我家から車で5分位の処に在る成城学園のグランド脇の小さな遊水池に、毎冬100羽を超すコガモが飛来越冬しています。そこでは時折オオタカがコガモを狩る場面が見られます。

私も一度ですが、その場面に遭遇する幸運に恵まれました。こゝ成城学園の遊水池は、日本野鳥の会が行っている全国一斉ガンカモ調査で県下の観測ポイントのひとつで、私が担当している場所です。私の記憶では4年前の1月中旬、カモのカウント中に突如カモ達が飛び立ちました。驚いて見上げた

視野の中で一羽のオオタカがコガモを捕えて飛び去って行くではありませんか… 捕えられたコガモがオオタカの爪の中で、少し暴れるたびに小さな羽が抜け散り乍ら遠く姿は、食う食われる関係の壮絶な場面展開でした。

水辺で狩をする時のオオタカは捕えた獲物を水中に抑え込んで溺死させてから、自分のお気に入りのお食事場に運んで食べたりもするそうですが、私の見たスペクタクルの場合は、オオタカが私の存在を先に察知し、咄嗟の行動ではないか…と勝手に認識しています。

さて、脱線が得意の悪い癖が出ましたので話をコガモに戻しましょう。

全国一斉ガンカモ調査で、私の知っている限り神奈川県では毎年カウント数の一位をマークしているのがコガモです。

そのコガモの世界地図上での棲息領域は、北米大陸全域、ユーラシア大陸全域、それはベーリング海峡に面したロシア領東端のチュトコ半島から、正反対の大陸西端のイベリア半島、そしてイングランド、アイルランドやアイスランドに及んでおります。

それに加えてコガモの越冬地が、メキシコ、日本、中国南部、インド半島南部、地中海に面した北アフリカまで含む広大な領域であります。

従って夥しい数のコガモが北半球全域の、夏季には高緯度帯で繁殖し、冬季には中からやゝ低緯度帯で越冬する事で種と命を繋いでいる訳です。

故に、我国でカウントされるコガモの数の多さを裏付ける最大の根拠がそこに在るものと私は認識しております。

(参考資料)

◎日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴声)/上田秀雄、山と溪谷社。

◎新水辺の鳥、野鳥観察ハンディ図鑑、解説:安西英明、絵:谷口高司、(財)日本野鳥の会

(イラスト) 広報 大塚 晴子

## 森林文化部会

『柿渋・燻製作り体験教室』開催！！ 9月1日（土） 清川リバーランドにて

過去、森林文化部会では、紙すき、草木染め、炭焼きなど、先人の知恵を学ぶ体験教室を実施してきましたが、今回は、柿渋・燻製づくり体験を行いました。

柿渋は、渋柿の未熟な果実を粉碎、圧搾して得られた汁液を発酵・熟成させて得られる、赤褐色で半透明の液体で、柿タンニンを多量に含み、平安時代より防水加工など様々な用途に用いられて来た日本固有の材料です。

今回講師役に11期の上宮田さんになっていただき、原料となる柿汁作りを行いました。

## 【工程】

1. 柿の採取(7月後半～8月が良い。  
採取したらその日のうちに絞る)…  
当日の朝採取。
2. 柿のヘタを取り、4等分にする。
3. つぶす(袋の中に入れて棒で叩く)。
4. 絞って柿汁をこす。
5. 容器に入れ、1年～数年熟成させる。

容器は各自自宅に持ち帰り、熟成させます。来年はこれを持ち寄り木製品・紙製品等に塗布し、柿渋製品の作成を行います。予備も確保してありますので、今回不参加の方も是非参加ください。



柿汁づくりと並行して、燻製づくりを行いました。材料は、ベーコン、シャケ、ハンペン、カマボコ、薩摩揚げ、ちくわ、コンニャク、チーズ、ゆで卵、たくあん、と多岐にわたり、用意した豚汁と共に昼食時舌鼓を打ちました。

(記、写真：森林文化部会 井出 恒夫)

## 【本の紹介】



題名：奪われる日本の森—外資が水資源を狙っている—  
著者：平野秀樹・安田喜憲

(発行所 新潮社 文庫本 490円＋税)

今、尖閣諸島や竹島の領土問題が騒々しい。

しかしながらあまり世間の耳目を集める事なく日本の国土が外資(ダミーとして日本企業、日本人を含む)及び全く畑違いの日本企業に買い漁られている実態を、本書は詳細に述べ何が問題なのかと事例を挙げて論述している。

買占めしている外資(日本企業も)の山林所有の主たる目的は土地と立木であろうが本書は地下水への狙いを強調している。地下水はいくら揚水しても地盤沈下への規制のないエリアでは基本的に無制限で自由且つ無料である。世界的な水需給が将来タイトになっていく事は確実であり水ビジネスとしての山林所有の拡大に繋がっているのではないかと。本書曰くある日、窓を開けて外を眺めると、見える山という山に外国旗が掲げられている…夢物語ではない。このような課題に対し政府・地方自治体は法整備を含めた規制へ立ち上がりつつあるようだが対象が私権(私有財産)に絡む問題でありその歩みは遅いようである。今求められるはこの様な実態を多くの国民、特に行政に携わる方々に知って頂きたいことである。文庫版発刊の機会には是非一読をお勧めします。

(記：7期 小野 幸広)

## 《お知らせ》

## ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水環境の  
保全・再生をめざして

かけがえない神奈川の水を  
守るために



## 活動短信

7/28~8/29

投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号になるものもあります。予めご了承下さい



ヒノキ



ホウノキ

## ◆ (社)神奈川県法人会連合会 (下刈り)

- 日 7月28日(土)、曇り  
 場 秦野市寺山 ヤビツ峠「法人会の森」  
 参 335名  
 県 自環保 水源の森林推進課 内田様  
 イ L森本⑤ 高崎④ 永野⑥ 草野⑧ 黒沢⑧ 齋藤⑧  
 小沢⑨ 水口⑨ 村井⑨ 海野⑩ 後藤⑩ 杉崎⑩  
 一重⑪ 大塚⑪ 徳岡⑪ 福島⑪ 東(一)⑫ 西出⑫

恒例の大型ネットワーク活動。昨年は、荒天により中止となり、このリベンジの意味合いもあった。当日は概ね曇天で、下刈り日和。バスの遅れもあり、少し押し押せムード。ただ、緑の募金を気にしたあまり、肝心のストレッチを失念してしまった。作業そのものは、ヒル献血者1名で、特にケガ人もなく終了でき、先ずは感謝したい。現地は、3年前補植したようだが、いまだ植栽木が少ない感じがした。今回、色々と課題の残る差配となったため、来年、再チャレンジしたいと思った。

(記 5期 森本 正信)

## ◆ 自然観察と飯ごう炊飯

- 日 7月26日(木)8時30分~13時、晴れ  
 8月 1日(水)8時30分~13時、晴れ  
 場 小田原市いこいの森  
 参 7/26 4名(大人2名・子供2名)  
 8/1 16名(大人5名・子供10名)  
 スタッフ 小田原市森林組合 佐藤 様 他管理人2名様  
 イ 7月26日 L村井⑨ 杉崎⑩  
 8月 1日 L村井⑨ 小沢⑨ 杉崎⑩ 波多野⑩

2回の活動を同じメンバーでという依頼先の話だったが、7月は小田原の登校日にぶつかり1家族4人だけの参加でインストラクターは2人に絞られてしまった。8/1は16人の参加だったが、下見もしてもらったからと小田原市森林組合の佐藤様のご好意で全員参加することができた。午前自然観察主体に坊所川の橋を渡り急な坂を登ってふれあいの丘でトランポリンに興じ、急坂を下ってスリル満点の飛び石を通過、クヌギの広場ではお目当てのカブトムシやクワガタ探し、親子を夢中にさせる魅力満載。ママシグサやツタウルシの話。杉崎さんのブラブラヘビには大人も子供も私たちがもびっくり。葛の木茎を使いシャボン玉をすると鼻水みたいなブラブラヘビが登場します。ぐるっと1周して炊事場に到着。子供たちが米をとぎ、慣れない手つきでマッチをすって火をおこし待ちに待った飯ごう炊飯です。管理人さん特製カレーでカレーライスを頂き、午後はキャンプ場を抜け森林組合の貯木場で丸太切り体験、最

後はふれあいの丘でスズタケの葉を摘み笹舟づくりをし、下の池でズボンもパンツもビシヤビシヤになって大はしゃぎの楽しい思い出づくりの一日が終わりました。

(記 9期 村井 正孝)

## ◆ 自治労神奈川県 (下刈り)

- 日 平成24年 8月3日(金) 9時~12時30分、晴れ  
 場 秦野市寺山字鷹採 (ヤビツの森)  
 参 31名 (申し込み60名)  
 財 豊丸様、看 青木様  
 イ L松本⑪ 斉藤⑥ 伊藤⑦ 小野⑦ 川森⑪

自治労恒例の『森の下に何が見えますか』の今年Part16。連日の猛暑日が続き熱中症が少し不安と山ビルが心配だった。前準備でインストラクターは区分けテープ張り駐車場から現地までの案内組みに分かれ作業を行った。作業時間は約一時間。今年6月等の豪雨で現地までの道がエグレ、車が入れない状態。予定通り皆さんがバス到着し作業前広場まで15分位歩いてきた。最初に例年被害に100%遭うヒル対策を行った。大鎌を使う下草刈りの注意事項、準備体操をして5班に分かれ作業場に向かった。草刈りはカヤ(草の)が多く腰も強い状態。各インストラクターの熱心な指導も参加人数が予定の半数となったので、草刈り面積は2/5位残ってしまった。財団の判断で残りは13期生の研修場にして対応するとの事で一安心した。怪我也熱中症なく作業を終了し広場まで下山し、ヒル点検をした。今年は被害ゼロで過去の例から見ると奇跡的であった。実はそうなると予測はしていた。一つは最近雨がでない。もう一つは該当作業エリアに鹿は2年間入っていない(11期生が鹿柵補修を頻繁に行っている)。無事作業も終わり自治労の皆さんは汗を流しに温泉場に向かった。

(記 11期 松本 保)

## ◆ 県民参加の森林づくり体験講座 (下刈り)

- 日 8月4日(土)8時30分~15時30分、曇り  
 場 相模原市緑区鳥屋(魚止めの森)  
 参 一般応募者44名  
 財 永島様 古舘様 桜美林大学インターシップ2名  
 看 青木様  
 スタッフ 地元関係:みどりの協会×2、森林組合×1  
 講話 佐藤 好延 様 (さとう草木)  
 イ L塩谷⑦ 永野⑥ 清水⑧ 鈴木⑧ 波多野⑨  
 村井⑨ 上野⑩ 石川⑫

小田急本厚木駅から約1時間半のバス移動の後、現地に到着。永島氏、塩谷氏より5班のインストラクター、スタッフ紹介、注意事項説明、準備体操の後、大鎌を持って横長の緩斜面の現場に移動。4年前に植栽されたカツラ、イロハモミジ、サワグルミ、ミズナラ、フサザクラなどを刈らないよう、気を付けながら下刈り開始。初心者が数名おり、互

いの作業間隔確保、上下作業の回避、水分補給など、注意を呼び掛けながら作業。1時間強と短い時間ながら、参加者は何れも熱心で目標をほぼ達成。参加者と共に作業の結果を笑顔で確認し、達成感を味わいつつ現場を後にした。昼食後は林業を営む佐藤好延氏の講話を聞き、帰りのバスへ。心地よい疲れで眠るうち、本厚木駅近くで振り始めた雨の中に下車。駐車場での反省会では「怪我なく楽しく一日を終える」ことができたことを確認し解散した。

(記 11期 上野 潤二)

#### ◆ コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト (第7回水源地域を訪ねる体験学習)

**日** 8月5日(日)10時00分～16時、晴れ  
**場** 宮ヶ瀬湖畔園地(愛甲郡清川村)  
**参** 35家族100名(大人51名、子供49名)  
**スタッフ** コカコーラ 高橋様、三橋様、他約20名  
**イ** L波多野⑩ 相馬⑤ 小野⑦ 内野⑨ 松本⑩

森林保護の大切さと家族のコミュニケーションの場の提供が主催者のねらいで、草刈り・丸太切りの体験/水の循環について学ぶ講義/カヌー体験を通じての自然観察の3つのプログラムより構成された催しです。参加者は家族単位で3チームに分けられ、3つのプログラムにショットガン方式で参加しました。昼食45分の休息を挟んで1時間で進んでいきます。我々担当の草刈り・丸太切りも1時間のうちに準備・後始末・移動、森の機能・草刈りの必要性等の話しの時間も含んで実質40分位の作業でした。チーム4班に分け2班ずつ何方かを先に他を後に20分位ずつ体験してもらいました。時間が短いので嫌に慣れたころ、各人コースター1個が切れ鋸に慣れたころに終わりです。暑い日でしたので丸太切りは木陰で行ない事故もなく終了できました。参加者からは抽選に当たったらまた来たいの声が聞こえ、楽しい時間だったようでした。

山ビルの多いところ。主催者がスパッツと塩水・虫よけスプレーを準備してくれていましたので、何匹かは作業終了後に見つかりましたが、血を吸われた被害はありませんでした。

(記 11期 波多野 康男)

#### ◆ やどりき水源林の森と水生生物観察会

**日** 8月17日(金)8時30分～16時40分、晴れ  
**場** やどりき水源林  
**スタッフ** (財)神奈川県企業庁サービス協会 荒井様他4名  
**参** 39名(子供21名、保護者18名)  
**イ** L山崎⑦ 高橋③ 高崎④ 草野⑧

好天に恵まれすぎて、標高400mを超える「やどりき水源林」にも猛暑が押し寄せ、気温30℃に迫る暑さに辟易しながらの活動であった。まず、本厚木駅前に集合し、バスなどで一路「やどりき水源林」を目指し、午前10時頃到着。

直ちに林内に移動し、主催者挨拶・インストラクター紹介のあと、4班編成に分かれ活動に入った。

(午前) 自然観察

寄大橋、林道、延寿の森、Bコース終点付近などを中心に「やどりき水源林」を案内。森林・水源の話、ムササビの巣穴の観察・シカの話、ヒノキ・クロモジの香りなどはじめ五感を使った森林の観察に、保護者ともども満足頂いた観察会であった。

(午後) 水生生物採集と観察

本日のメイン・イベントである水生生物の観察は、協会スタッフの入念な下準備もあって、スムーズな進行による水遊びに子供たちの歓声の音が「やどりき水源林」に響きわたっていた。カジカ、カゲロウの幼虫、カジカガエルのオタマジャクシ、ゲンゴロウなどを採集するたびに保護者に駆け寄る子供たち。この時ばかりは保護者も童心に帰り、夏休みの思い出になる楽しい一日になったようだ。

また、本日最大の収穫は、このやどりき水源林で、サンショウウオを観察できたことであった。上流側から流されてきたのか、参加者からの発見の報が伝えられると、皆駆け寄り、その姿に感嘆の声があがった(もちろん、この日採集・観察した生きものは元の場所に戻しました)。

(記 8期 草野 弘)

#### ◆ 県民参加の森林づくり(下刈り)

**日** 8月18日(土)8時30分～12時30分、曇りのち雨  
**場** 小田原市久野  
**参** 一般応募者 68人  
**財** 内海課長、初山様 **看** 青木様  
**スタッフ** 小田原市森林組合、社本様、佐藤様  
**イ** L宮下⑩ 高橋③ 佐藤⑤ 戸谷⑥ 内野⑨  
水津⑨ 村井⑨ 川森⑩ 中村⑩ 波多野⑩ 石川⑩  
桜美林大インターンシップ: 嘉山 松谷 宮口

県民参加の森林づくりである下刈り作業に、一般参加の方が68人、関係者を含め総勢85名が小田原駅に集合。天気は曇り、少々雨が心配な空模様。

現地に到着後、オリエンテーション、下刈り作業に伴う「安全目標」や作業の留意点の説明。ストレッチ体操に続き班分け後、カマを片手にいざ作業現場へ。現地は、平成20年に落葉樹を植栽した場所。イノシシに荒らされた急傾斜、とげの多い灌木、ジバチとアブに悩まされた。近接作業、上下作業、下向き作業の禁止など安全対策を確認後、作業の開始。現場では、足場を確保したうえでの下刈り作業。少々苦戦するも作業は進められた。

途中から雷鳴が聞こえ、空からは雨が降り始めたため、作業を中断。安全を最優先しバスに避難。時間は早かったが、4台のバスを順番に回りミニ講座を行った。テーマは、「神奈川県の大木」。いつもと違ったミニ講座の開催と

なり、落ち着かなかった点は悔やまれる。

下刈り作業は少々物足りない様子。朝早くから足を運んでいただき、熱心に参加していただいた方々には残念な思いをさせてしまった感がある。

(記: 10期 宮下 修一)

#### ◆ 水源環境保全・再生事業現地見学会

日 8月18日(土)10時～12時、雨

場 玄倉・秦野峠林道

参 37名(小学生とその親)

スタッフ 水源環境保全課 今部課長他5名  
水源の森林推進課 倉野課長他1名

イ 渡辺③ 黒澤⑧

今年度は第2期かながわ水源環境保全・再生実行5ヵ年計画の初年度にあたり、この施策を長期にわたり継続的に取り組むことの重要性を、県民に認識していただくという趣旨の企画。次世代の水源環境保全を担う小学生とその親を対象に募集したところ、多数の応募があり、抽選で37名の親子連れが選ばれた。

一行は2台のマイクロバスに分乗して、新松田駅—玄倉(秦野峠林道)—三保ダム—飯泉取水堰というコースを廻ったが、われわれインストラクターは玄倉まで同乗し、水源林整備の説明をした。あいにくの雨のため、車外に出られず車窓からの見学となったが、神奈川県の水源地としての酒匂川の重要性、人工林の整備、広葉樹林の手入れ、治山治水、林道整備などを現地で実際に見ることができ、有意義な見学会であった。とくに、露平では広葉樹林の間伐・整備という数少ない施策の実例を見ることができた。

(記 8期 黒澤 隆)

#### ◆ 自然観察と間伐、水生生物観察

日 8月26日(日)、晴れ

場 やどりき水源林(広場 他)

参 三菱重工業(株)相模原製作所 16名(内:子供6名)

県 自環保 水源の森林推進課 後藤様

イ L 高橋⑨、宮本④、山崎⑦、伊藤⑦

三菱重工業(株)の社員とその家族参加によるイベントを行いました。

当初の計画は50名程度の参加を予定していましたが、3家族他で16名の参加となりました。

午前中は間伐と自然観察を企画。家族は自然観察を行い、個人参加の3名が間伐体験を行いました。間伐では午後のクラフト材料の確保もあり、少数精鋭で2本の檜を伐採し1.5m程度の材料を6本持ち帰りました。

昼休憩にはスイカ割りも行いましたが小さい子供が多く、命中しても割れないのに大人は大笑いでした。

午後は全員で間伐材を切り、コースター作りを行いました。

た。慣れないノコギリを使い材料を切ることが出来ました。その後、広場前の水場で水生生物の観察と水遊びを行いました。水生生物は水路の変化が多い為か、余り採取することは出来ませんでした。タカナシの森で採取してきたサンプルやサワガニ、オタマジャクシを興味深げに見入っていました。当日は朝から夏空が広がり暑い日となった為、水の中では水着、私服を問わず全身浸かっても気にせず、箱メガネ、網を持ち時間を忘れるほど遊ぶことが出来たと思います。終わりの会で、子供たちに「面白かった?」と聞いたところ、子供全員の手が挙がり、夏の思い出の一つになったのではないかと思います。

(記 9期 高橋 修)

#### ◆ 県民参加の森林づくり体験講座(下刈り)

日 8月29日(水)8時40分～14時20分、晴れ

場 足柄下郡箱根町仙石原(箱根小塚山トラスト緑地)

参 一般県民 37名

講話 伊藤様(ポーラ美術館)

財 豊丸様 永島様

イ L 武者⑦ 堀江④ 齋藤⑧ 高崎④ 飯澤⑨ 滝澤⑤  
篠原⑨ 大道⑥ 上宮田⑪ 小野⑦ 宮下⑫

小田原駅西口へ集合し、マイクロバス3台で目的地へ。10分遅れのバスの出発だったが、予定時刻通りポーラ美術館駐車場へ到着した。駐車場付近の立派な姫沙羅の木が我々一行を迎えてくれた。ポーラ美術館管理部の伊藤様より箱根の森林は笹等により木の実が落ちて若芽が出ない現状で下草刈り作業は年3回が理想との貴重なお話を頂戴した。現地到着後、武者リーダーのもとスケジュールの説明、作業内容、注意事項の説明があり、特に笹を竹挽きノコで刈る作業のため、低い姿勢で出来るだけ下から刈るので「腰を痛めないように」との注意があった。5班に分れ竹挽きノコ、ヘルメットを受取り作業開始した。森林の中は日の光がられ涼しかったが、作業するにつれて汗が出て20分、2回の休憩を挟んで作業は終了した。道具類の手入れ、収納後各自、昼食をとった。昼食後、森林づくりミニ講座をリーダーの武者さんより「秋の七草」の話がありとても好評でした。インストラクター11名での反省会では危険予知活動(KY活動)を「各班ごとに話し合い」をやればよかったとの反省がありました。

(記 12期 宮下 啓一)

略語の説明 日:日付、場:場所、参:参加者、  
県:(自然環境保全センター)自環保・水源の森林推進課

財:(公財)かながわトラストみどり財団、

スタッフ 例 小田原市森林組合・佐藤様 川崎市公園緑地協会・野牛様

看:看護師、イ:インストラクター(○数字:期)

## やどりき水源林 ミニガイド

### 9月のトピックス (実際は8月後半)

何と小さなサンショウウオが見られました。局地的大雨で上流の沢から流されてきたのでしょうか？



(写真提供:8期 草野氏)

### ・10月の水源林

少し訪れ始めた秋の気配求めに水源林を訪れてください。森の案内人がご案内します。ご家族連れ、お友達を誘ってどうぞ。まだ清流での川遊びもできますよ！！

### 「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度 (12月1月2月休止)

●集合：水源林入口ゲート前

●内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。参加自由、参加費無料

\*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(公財) かながわトラスティ  
みどり財団 TEL:045-412-2255

携帯：090-8580-5348  
fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

## イベント情報 & ご案内

### 「葉っぱのアレティー」 公演会



会場：KAAT神奈川芸術劇場

日時：10月6日(土) 13:00/16:30

お問合せ：t v k チケットカウンター  
TEL. 045-663-9999

### ◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>  
小沢章男まで

Mail:a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉2-1-50

Tel/090-6150-6173

Mail:s.akasaki-k\_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail:matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail:minagold109@plum.plala.or.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail:l2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

11月11日(日曜日)に山北町の丹沢湖ダム広場公園で

「第2回神奈川チェンソーアート競技大会」開催が予定されています。

### 編集後記

★先日、初めてヒルに吸血されましたが、なんとなく一人前になった気がします。(赤崎)

★9月の中旬は暑さを逃れて北八ヶ岳白駒周辺の苔と水生生物観察、7期の竹内さん経営の”ペンション八ヶ岳自然ヒュッテ”へ行ってきました。白駒荘もペンションも美味しい料理がどっさり<天高く俺肥える秋>となりました。(村井)

★異業種交流と言われますが、異国間交流を1カ月行いました。言葉の壁はやはりポイントでした。(小沢)

★やっとならなくなってきました。なにをするにも最高の季節ですね。森のなかで、美味しいお弁当食べたいな!(水口)

★今年の夏は神奈川県を除く関東1都5県は水不足。日頃の水源林等への意識と行動の差でしょうか。誇りを持って更にならばりましょう!!(松本)

### ◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒価 200円 送料共)

編集人: 小沢 章男

事務局: 竹島 明

広報部: 水口俊則 松本 保

真貝 勝 鈴木 朗

鈴木松弘 大塚晴子

村井正孝 徳岡達郎

加藤暖子 赤崎さほり

森 義徳

## 松田山 秋のハーブフェスティバル (セージまつり)

ハーブガーデンでは秋(10月)のハーブフェスティバル「セージまつり」が開催されます。肉料理やお茶などに使われるセージが見頃を迎えます。



小田急 新松田駅  
踏み切り際

山麓の オアシス ⑬

～お食事処～

秋の美酒もお待ちしています

こまち

緑の募金箱協力店